

借煮八線

上

14
3157
2500



そむるを才の侍と来りあふくも見付て本よの
不せんといふに花菊寸履きまもあつねを
それらふよまうきさきとけらよ老と
らん人の見ゆふいとちうう十つ十とを
るそ移来といふは何そと何よふひまるひの
脚けよせんとのと扱意の付句よ右人のをく
少治しおるきしとを定よ速ん昔意取よ
急よき聖あり何あうく意の真情を志
りぬあやと人の呪しよふふい毒ても覚えても
孫院を志しひきりんをもてよありと意
いといとききいさるまやをくハ其う太少う

新書やたより意の千松詩といふ句の意の一字を
男よへし萩の松といふ集よけけ家よ才を志
きりりとつよふ文きておむ便りの続ときといふ
祖籍の附句を是ハ才をうられたる女の母乃
才一終る文之お句よけけとありより附句の続
研とあるを志あへしけ文を推ひ女のおのあ
やるとんをハ只よふくの附よて公籍の志よ可
い祖籍ハ神よ意句よ妙を御きゆめより意
はのりつ、おおりの才よ抱くへとせつうきて又ハ
あやあつて洗ふ油を樹をよ意の心をかた
せたるると一と筆るよいとぬあつて情言およ

あつれさるゝ人々の及ぶふあつれ徹と記和語
 小忘れぬやさいりり我ん後よりせとそい
 ひておまきしといふ定家々の歌をあけては
 誰も及ぶまきいゝ歌の歌ありとちれりりされい
 奇も侘歌も先達のこゝろはとめりきし
 思ひやちゆし古今抄は日数考 意の一字ハ天の
 字摺の詞よりハせのほまこめりりりて大和歌の
 本意とるをれハ代々の帝の撰集もも意の歌な
 しといふとるしけぬと連歌の支式よりとい
 かいの古抄はあつれ意の詞をち集て意ハ
 三句より又句と定む志といつとあつれハ詞

をりて意と守りて文字ハかりりねえ古抄は
 女の一字より娘とく娘ともいし桂良傾城の名
 目とても當句は意のいめ情なき時ハ例の言葉
 を意といせのけあつれ他門より意を一句まで
 捨るといふふあつれの抄はありし意ハ陰陽の
 及程より一ハ必二は定りきし之を四ハ拍の
 法行るれハ三句より又句ハ時ハ陰陽の意
 を一句まで捨る意あつれを中右のとい
 かいハ風呂屋の意と下帯と付ても意ハ
 二句ありといふんるとき我れは且てき扱
 るし△意の一條ハ今武のたよりりて意ハ

一句まで控まじき修飾の程のそをいひてき
 弁ハ未だ定ううんそ敵いんとなれハ
 詞の意ハ字ハあまんとんの意ハ句ハあるゆ
 其時を句よ向ふまじハ句情ハかて擱うじ
 たとハくしん場の敵も一度又起をらひ修飾の
 せらそりやと多拭とよ句ハふしん場の敵論
 そころの境を掃おろすよおかれて起る人
 の多拭を多よ掛て及ひ掃よさしやうい
 大工本挽の立さつきて拍のそ話あさぬる
 を三句目の休去の夜を志りて打こりの
 をとひを情せんところ起情の附身をお案

しておろしるやおたりぬうりのほれろくても
 傍軍中の志のひ森よ一床の下ろりいさや川の
 いささぬぬ白そあせるうめ志うきそあ句の
 休去ようつてそ意ハるる事ともほの休去
 の敵方よりおと意のあ情を見付たれハ
 彼とあとの二句とるりて意ハ変して三句
 るりといふ一しうくもぬらひの意情るれとも
 附句よ志ころひて意とる事ハ意ハ一句まで
 控のとり了師資の口訣ハけいひるるへ
 又白草紙曰是ハ三きりの四の二つり修飾の
 土茅子ハ其翁ハ支去の冊子なり
 意の正を先抄曰むうより二句結さるる

用ひたる也むう一の句ハ意の詞をのりて集
おききき詞をつり句とる一の意の詞を
おりのりありそのり宗徳宗砌の以とハ一
りて止り例るきよもあはははははははは
も法して一句よても並へきるもあははは
又いそくあ句意とも並るもははははは
かきき句を時ハかききハ意の句を付てあ
句ともハ意よるもははははははははは
小説おききき一りもあははは意を一句よて捨
る例るきき一りもあはははとハ功老の目さ
神んのおははははははははははははははは

屏風の陰よ見え草子多とある附句を以て
あ句ハ理をつき意を一句よ捨るもははは
ハははははははははははははははははは
寸意ハ月花ハ後てまき相るもハ二句ハある
あきるりかとき時ハ意をるハ一葉とハ娘
後るもといひはははははははははははは
詞を以てハ小冊を意の葉と題すはははは
道と形ハハの妙ハあははははははははは
経文見もはははははははははははははは
おを以て億万其の億万せきまハ著述の罪も
又まくるもはははははははははははははは

古くは...
 悪句の扱...
 方をも...
 是を戒ん...
 めを...
 か...
 うるはく...
 老漁其日...

凡例

一字のよまー...
 と上の字とを借用し

一字のかこり...
 とのかま...
 一カかくの...

あり...
 あり...

川女の念念と涙の如き

一 けと飯乞をひのるふあまきい法て
からと正きひりまくの法をあく
をとめおとめろとあく飯乞の悔も
華たきとこいを物よまうその悔り
預伝のあふとあまの只きを蒙の
さと一あふんとあ一と可

一 附言よりてくけ小冊意染と懸え

たきこえ全文皆意の行よるるとい
あまのあふ只婦人のよまき用るる
のまを載るる人編えまよとあま
一 乾門のまうら乾坤を首よ並ふ
定らる法られとは冊意よとつき
たきい意とつ字をそまおとんあま
入る門をあよ並乾坤をほまま

目錄

人事 初丁

意より人懐ありゆり
と語ふくの古語和漢
の故よりホを集

婚姻 二十二丁

嫁入嫁入の式まつてお人
まひは付るるたをホと

支神 二十七丁

右よりつりつり婦人の髪
のしきや目白病神
そのきやのより廢人
のしきやあることまつて
婦人の意目を多く裁

人倫 三十五丁

衣類 五十丁

友後より平生の衣後ホを集

忌用 五十八丁

新婦人の身よを付る忌物
取物考より忌物の記

買入 七十八丁

北忌於女の忌目買入より
りより古今の忌所地忌ホ

神歌 八十五丁

意を形々の神仏ある
自中形よりホと記

乾坤 九十丁

意の行より忌不徳忌
ホ多し裁
ホ多し裁

三

上

書目録

日本記
 古事記
 磯系抄
 令義解
 神代卷
 延喜式
 五山記
 梁塵尾抄
 江次集
 西宮託
 抄本備找抄
 いせ抄

旧事記
 石養集
 玉史
 職員令
 禁秘抄
 權記
 竹丸抄
 北山抄
 女友傳抄
 八雲法抄
 去佐日記

大和物語
 兼光抄
 藤玉集
 抄花葉集
 小右記
 源正式
 江流
 源氏物語
 花鳥余情
 細流抄
 弄花抄
 兼光抄
 三知抄
 名目抄

了つ不物語
 玉傳秘抄
 善相公異見
 桐野暎草
 胡曹抄
 笈見記
 仙見抄
 岷江入礎
 河海抄
 孟津抄
 袖中抄
 了女抄
 道找抄
 拾遺抄

堯撰式
聖皇本紀
和名抄
公事公源
六百家身合
齊海文
仙源抄
松平氏
身林良枝
亭蒙抄
拾葉抄
つれく亭
長能私記
松葉抄

夏見抄
藤垣州
百寮訓要
堪川殿中日記
玄白女玄
書信法記
關疑抄
職人身合
無名抄
裝束抄
自瀆身口
仲社考
四季州
歲時記

仲了
俊和抄
詩經
周孔
談文
前後漢書
西京雜記
天竺遺事
白氏文集
遊仙窟
吳竹集
揚氏漢語抄
香乃抄
婦人養身

詞林採葉
小三系文法
孔記
爾雅
叙名
通生八賤
五雜俎
文選
姓氏錄
冥鬼志
奈及不忘
源平盛衰記
諺
和身分記

信 京州二重

名所

玉勝

冠辞秀

小袖

身枕

大目録 裁き方 又井 全志を

人物

新成丸

形式

和身七

安部

帯結

急

人事

江戸

檀之本北元著

葎雪庵刀負荷而右



急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

急

一々せ 一〇名 一〇恋 一〇死

一〇の恋 一〇人 一〇中 一〇せぬ

一〇の恋 一〇せく 一〇まじり 一〇まじり

は介いらすもあへられとき一二を裁 思の恨の思

るとの字も大体見ゆる 余りある傲之

〇恋をてふ すまひ 一〇寸さむ とひ 一〇らく

らくの恋 く 〇大なりき く 〇くる

るもの く 〇の恋 く 〇幕 レニボ

〇流恋 モロコヒ 〇井の恋 井立 〇幕 レニボ

〇の恋 の恋 〇くらく恋 くらく

〇の恋 の恋 〇くらく恋 くらく

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

〇恋 コヒ 〇恋 コヒ 〇恋 コヒ

来ぬー | ーさまー | ーとち | ーのこを
 ーえる | ーぬー | ー切 | 我ー |
 ものー | ー坊 | ー出 | ー入 |
 ー私 | ーの外 | ーのたの | ーの赤 |
 うきー | ー | ー所思 | ーあくがく | 余見
 下のー | ーおもほえ | ー | ー | ー |
 ー。ぬんと | ー | ー | ー | ー |
 ぬん | ー | ー | ー | ー |
 くづを | ー | ー | ー | ー |
 顔墮 | ー | ー | ー | ー |
 朽朽の女 | ー | ー | ー | ー |
 抱く | ー | ー | ー | ー |
 抱 | ー | ー | ー | ー |
 抱 | ー | ー | ー | ー |
 抱 | ー | ー | ー | ー |
 抱 | ー | ー | ー | ー |
 抱 | ー | ー | ー | ー |

○根ざー | ー | ー | ー | ー |

○春よおろよ。秋よー | ー | ー | ー | ー |

○思 | ー | ー | ー | ー |

男 | ー | ー | ー | ー |
 感 | ー | ー | ー | ー |
 陰 | ー | ー | ー | ー |
 思 | ー | ー | ー | ー |
 思 | ー | ー | ー | ー |

○情 | ー | ー | ー | ー |

ー | ー | ー | ー | ー |
 ー | ー | ー | ー | ー |
 ー | ー | ー | ー | ー |
 ー | ー | ー | ー | ー |

みやびにん。風流。閑。閑麗。伊

ハよふひハ情ニ定カシ流情ヲ加ハキムクケシキムク

○丑 志のひ 志のひき 志のひき 志のひき 志のひき 志のひき

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

笑たる 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

嵐はま 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

門より 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

扱戸出 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

結婚日 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

許母理豆能志多用波用 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

父母みま 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

父母みま 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて 志のひて

垣^{カキ}見^ミ

視^シ私^シ屏^ヒ回^ヘ 視^シ其^シ私^シ屏^ヒ也^ヤ

あひ見しりや
ものなひるひま

垣^{カキ}あゆる。穴^{アナ}く。る

ちんや

うづ神のいさきもこえぬべし。竹丸^{タケマル}のねる垣^{カキ}えこえる
ハ我名^{ワガナ}のこしけくもるし。ししをほまといひや。

根^ネ。中^{ナカ}垣^{カキ}。あ垣^{カキ}。笠^{カサ}。

世^ヨとくきうま
るま本集

んあ^んあ^あのころうの井^イひうき文^フのあひのそまやこき

通^{トウ}

かよひ

川^{カハ}

ん^ん

た^た 川^{カハ} 石^{イシ} 根^ネ 河^{カハ} 根^ネ

もがり妹^{イモ}許^コ。前^{マエ}つらう。おけ

人^{ヒト}君^{キミ}

人のをきろく函^{ツツ}
はあ^はあ^あのうら^うら^らる^るる^る

君^{キミ}使^シ

人^{ヒト}形^{カタチ}

君^{キミ}色^{イロ}き。み付^{ツキ}めきき。たしるる。使^シ

通^{トウ}小^コ町^{チヨウ}

淫^{イン}曲^{キョク}

棍^{ケン}のはし虫^{ムシ}

しち^しハ車^{クルマ}のを
く^くを^を用^{ヨウ}ひて

ねりのありする物^{モノ}ハ「百^{ヒャク}折^セを人^{ヒト}を^を訪^ヒて^てあちの上^{ウヘ}よそ
敷^{シキ}を^をま^まま^まら^らぬ^ぬま^まら^らる^るり^り未^ミ自^ジ大^{ダイ}臣^{シン}根^ネの^の好^{コウ}そ^そり^りを^を

暖^{ニキ}の^のま^まら^らの^のま^まら^らる^るり^りね^ねう^うき^き思^シう^うこ^こぬ^ぬお^おハ^ハ我^ワそ^そ敷^{シキ}え^え

鴨^{カモ}の^のお^お松^{マツ}かき

男^{オトコ}を^をた^たの^のむ^む女^メと^とぬ^ぬお^おの^の敷^{シキ}ハ^ハま^まら^らる^るり^り

りれ^りハ^ハま^まぬ^ぬお^おの^の敷^{シキ}と^とか^かく^くを^をる^るん^んし^しよ

暖^{ニキ}の^のま^まら^らの^のま^まら^らる^るり^りを^をま^まま^まら^らる^るり^り未^ミ自^ジ大^{ダイ}臣^{シン}根^ネの^の好^{コウ}そ^そり^りを^を
又^{マタ}漢^{カン}の^の武^ブ帝^{テイ}王^{ワウ}子^シ鴨^{カモ}公^{コウ}ら^らる^るり^りあり

○契 ちきり ちきり 一可よ手振とちり

一六 あり 長き 二世の

一おく おの 余不の むすよ

一飯の 我 末の て

一 をぬ 一 は 一 は 一 は

○偕老同穴 詩 一ツ蓮の上 一ツ穴 一ツ穴

○おももききぬ イセ ○あきす ○ くきき

○ の た な き ○ 摺 漆 契 抱 かく き ち き り

○あうちまどひ らんを掛 ○ 衣 院 院 かけて あ

○拙言 ちちい 一 あ あ あ あ ○ 起 情 ○ 拙 言 あ

○うけび ちちい ○ か ご と 候 言 神 言 か ご つ け え

○ と よ 々 も あ ま ○ む す び ○ 糸 ○ は い と

○ よ り 糸 ○ 糸 深 の 糸 糸 ○ 合 の 糸

○ い な せ い や と ふ ん の 領 懐 する ん え

○ 後 一 を き く ま こ ら ○ 黥 い ま 不 く ろ

○ ゆ び 切 ○ 髪 き る ○ ひ と り を ま り る

○採みきを 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○採 採は採選よ採下よ採上よ採中の採るる

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

○又 又ハ古きと又ると又よ又又ふくとの中田

昔女田男の力一柳のそよ身を去軒の糸糸は流しと

恋語

○女を女 句當の内侍 ○宣旨女 シロキ

○女 うまの ○女文字 ケ字 ○かたりとほ

○玉 ツツサ ○ト ○魚 サウフミ 魚文 うまのり

○け 源氏三代集いせ物語ホの け さありて人のさくらさくら

○侍 まち ○侍 まち ○侍 まち ○侍 まち

○白 あま ○下 あま ○下 あま ○下 あま

○侍 まち ○侍 まち ○侍 まち ○侍 まち

○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ ○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ

○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ ○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ

○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ ○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ

○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ ○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ

○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ ○夜 ヨロコヒカラス 馬 ハ

恋語

七

さくらよの西京日蜘蛛襲而萬事喜

○**牝**結 むすまきくさの 一 杯する のふき

おとろと 一 流るる のまき また芝の葉

とむす 又 いほむす ひの ん 五 味 うつ 終 る も て く さ

むすまき とく さ あり ん 日 す ま く よ

○**鳴** 人の 一 支 我 一

世 よ 一 以 我 一

○**束** ぬ 夕 の さ ま ひ る の 嘖 は を す れ は ま ひ ろ と 左 終 く

五 は は く え 抱 人 道 我 則 嘖 詩 願 言 則 嘖

○**な** つ か 一 ま じ 執 古 月 も 花 も い ろ く

○**隔** へ た ら ん と 一 ん と 一 ら き と 一 あ の ひ と 一

へ た ら ん と 一 あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

さくらよの西京日蜘蛛襲而萬事喜

○**牝** むす ま き く さ の 一 杯 する の ふ き 一

おとろ と 一 流 る る の ま き 又 た 芝 の 葉

と む す 又 い ほ む す ひ の ん 五 味 う つ 終 る も て く さ

む す ま き と く さ あ り ん 日 す ま く よ

○**鳴** 人 の 一 支 我 一

世 よ 一 以 我 一

○**束** ぬ 夕 の さ ま ひ る の 嘖 は を す れ は ま ひ ろ と 左 終 く

五 は は く え 抱 人 道 我 則 嘖 詩 願 言 則 嘖

○**な** つ か 一 ま じ 執 古 月 も 花 も い ろ く

○**隔** へ た ら ん と 一 ん と 一 ら き と 一 あ の ひ と 一

へ た ら ん と 一 あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

あ の ひ と 一

一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一

○衣を忍まそ。袖忍寸。夏見草振の

○盤と枕兼。一 一 一 一 一 一

○演ゆふよ名を去おまじよ

○石去かべ。一 一 一 一 一 一

金葉 祢ぬるよのえさつうく 笑一とそちふれハをうううう

○現ウツ。一 一 一 一 一 一

○夜ウツ。一 一 一 一 一 一

○仇イダ。一 一 一 一 一 一

○花ハナ。一 一 一 一 一 一

○伊イ。一 一 一 一 一 一

時世精。一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一

○出テタテハエ立ハエ系ハエ○笑イロ。艶詩序疏云謂女

一好人一くく一の及一一の世一

一男。世男人女。世男づ女いたる男

○親子ニコロ心をを子つ子。艶エニタテ立エニ。ままめめたちたち 暎ヒ拖ヒ

好好色色ののささのの用用 函函 ままききくくああままきき

ままままりりくくままひひるるとと 山山ママくくそそくく

○ままろろびび合合。約ヤク束ツク 音音のの一一

○みみそそううとと。批ヒふふるるくく。たたごごよよととすす

○身身をを但但。ささ一一むむふふ。千千扱扱をを一一扱扱

○ささ一一ああひひ。屯屯ききとと。身身ををふふるるすす

○ふふるるささろろくく。志志るる世世ゆゆりり。かかりり初初

○いいひひたた一一むむ。いいひひささくくのの子子話話一一とと

○ううかかききるる。月月もも花花もも。身身ははああままるる

○ううちちととけけ。ううハハのの夜夜。そそののたたののめめ

○付付ささしし。吸スヒ付ツケ甚タハコ。近近ままささりり 土土おおととりり

○付付ささしし。吸スヒ付ツケ甚タハコ。近近ままささりり 土土おおととりり

マフラスカス
○**迂** 詩揚水人。いたづらと。くどく
實_マ迂_女

口説詢。女々もひ。女がこまき。託_{カコツ}くろ

○**深心** 世々ま回。うつりん。の介

― やり ちるふ。― 合。― 一の介

― 並。― 合。えの。― 一の介

― せり。― つよき。― 一の介

つめまき。― あり。― 迷。― 一の介

― 介。― 深き。― 深き。― 一の介

ひとら。― ちるふ。― 控る。― 一の介

○**眩** 友。親_マ訪_可 眩_目 いろいろとちりて

○**むつと** 中。― ひとり。― かし。―

― 中。― ひとり。― かし。―

うれ。― き。― 深。― め。― の。― ち。―

○**恋** 中。― 中。― ひとり。― かし。―

そむく。― 親。― ひとり。― かし。―

かうした。― 深。― ひとり。― かし。―

ふさううか 沢あるー 衆のー 取れぬー

トあー いさけまきー 一をさく すすむ日士 中と日士 とれぬ

○つひのよらせにかりくさぶる むひのりり めひのー

○縁 えん 一むよ 一のー えり 遠 あくー

きりー 一 一付 一のー 一のつさ 一りしー 一歩一 一歩一

○由かりのーの巻○文のえ○まき

急のえ おれえのなる ちりよ急のえ あり甲

そろ急○ありぬ急○しきるえ○急をなぐす

○あらりる○種よある あらりぬ

○悪名○ありあふ 位名とあふ ○不 とあふ ○不 とあふ

たのみ人 えうき人 ○むーあ人○人を止 えうき人

○袖ー一つく つくハ衛く後 ○袖う 袖をかき

一みま雲つく ハまらま雲 ○ま ハまらま雲

○男する 原 川 原

回世の事とをとりーありぬ

⑤ ねきる 物いらく くらぐたき氣原

ま〜〜〜〜〜
男トヒ女トヒのねトヒ。親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

親トヒさくるサイぬき川のせいの

くいつりこよのいざとるなり

○流 そのひ | そのり | 一森 | 一巾 | 一 | 一 | 一

○流 其 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

二日甲辰故丸大目女参入用鞞應和三二月二十八辛亥昌子内親王参入俗謂之副卧卒

○み ろり | 森 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

よゝり 祓 おひひ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○ぬ おむ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○森 こき | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○書 あ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○森 く | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○書 あ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○森 く | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○書 あ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○森 く | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○書 あ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○森 く | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○書 あ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

漢字

十四

せいのうさね。源氏中川のあまてつらのとこのねまく

そひのひもろさうもをねと

ぬきこののれか。森くろ。森くろ。森くろ。森くろ

○国 ぬ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○相 與 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

○慵 ふ | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一

うき時
 ね
 一 一 夜
 一 一 林

おぼろけ
 一 一 身を
 一 一 磔

おぼろける
 一 一 死
 一 一 下
 一 一 死

泣らき
 一 一 泣
 一 一 世
 一 一 人

泣るけ
 一 一 泣
 一 一 世
 一 一 人

死
 一 一 死
 一 一 人

あり
 一 一 死
 一 一 人

嘔
 一 一 咽
 一 一 白異声

墮たる
 一 一 墮
 一 一 墮

むね
 一 一 大和
 一 一 大和

別
 一 一 別
 一 一 別

扇の
 一 一 扇
 一 一 扇

きぬ
 一 一 絹
 一 一 絹

考
 一 一 考
 一 一 考

歌
 一 一 歌
 一 一 歌

かきく あるき。あきき あるき。あきき あるき。あきき あるき。

狂鶴 ウカレトリ。病鶴 ヤモメカラス。明馬 アカウマ。法馬 ホウマ。

雞面 チキメン。頼強 タカシ。伊 イ。牛 ウシ。一 イチ。牛 ウシ。一 イチ。牛 ウシ。一 イチ。

まりのき。まりのき。まりのき。まりのき。まりのき。

意味 イミ。意味 イミ。意味 イミ。意味 イミ。意味 イミ。

はしたるき 強半 カチハジ。牡丹 ボタン。牡丹 ボタン。牡丹 ボタン。牡丹 ボタン。

あきき。あきき。あきき。あきき。あきき。

あやな アヤナ。あやな アヤナ。あやな アヤナ。あやな アヤナ。あやな アヤナ。

齊中合 サイチュウカウ。いさぬ イサヌ。いさぬ イサヌ。いさぬ イサヌ。いさぬ イサヌ。

笑 ウツクシ。笑 ウツクシ。笑 ウツクシ。笑 ウツクシ。笑 ウツクシ。

うたぐ ウタグ。うたぐ ウタグ。うたぐ ウタグ。うたぐ ウタグ。うたぐ ウタグ。

恥 チ。恥 チ。恥 チ。恥 チ。恥 チ。

あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。

あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。

あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。あき アキ。

○あはれしく。あはれしく。あはれしく。あはれしく。

○さくろ。さくろ。さくろ。さくろ。さくろ。

○おとあや。おとあや。おとあや。おとあや。おとあや。

○つとむ。つとむ。つとむ。つとむ。つとむ。

○悔。悔。悔。悔。悔。
ホノヲカム 日九傳莊公六年 若子

○悦。悦。悦。悦。悦。
上早圖後君

○宵。宵。宵。宵。宵。
そむく

○嫌。嫌。嫌。嫌。嫌。
ききよ

○森。森。森。森。森。
よろこ

○憑。憑。憑。憑。憑。
たのむ

○厭。厭。厭。厭。厭。
いとむ

○割。割。割。割。割。
きり

○怨。怨。怨。怨。怨。
うらみ

○恨。恨。恨。恨。恨。
うらみ

○ふす。ふす。ふす。ふす。ふす。
あはれ

意集

十一

あはれ

さくろ

おとあや

つとむ

悔

悦

宵

嫌

森

憑

厭

割

怨

恨

○あはれしく。あはれしく。あはれしく。あはれしく。

○さくろ。さくろ。さくろ。さくろ。さくろ。

○おとあや。おとあや。おとあや。おとあや。おとあや。

○つとむ。つとむ。つとむ。つとむ。つとむ。

○悔。悔。悔。悔。悔。
ホノヲカム 日九傳莊公六年 若子

○悦。悦。悦。悦。悦。
上早圖後君

○宵。宵。宵。宵。宵。
そむく

○嫌。嫌。嫌。嫌。嫌。
ききよ

○森。森。森。森。森。
よろこ

○憑。憑。憑。憑。憑。
たのむ

○厭。厭。厭。厭。厭。
いとむ

○割。割。割。割。割。
きり

○怨。怨。怨。怨。怨。
うらみ

○恨。恨。恨。恨。恨。
うらみ

○ふす。ふす。ふす。ふす。ふす。
あはれ

意集

十一

あはれ

さくろ

おとあや

つとむ

悔

悦

宵

嫌

森

憑

厭

割

怨

恨

ふす

○ま後の虎

チハハラ まあはれ人となりし虎

○さかしら。後

オコト 人の中とをつらう

○ねたむ。嫉

○妒。媚 詩註云以色

息 又婦之妒曰妒夫之妒

日媚說文媚者忌也

楚辭云各興心而嫉妒註

○むねを裂

○鬼くさ

○呪咀。毒虫の逆

たぐくするあり 貞夫よ天の運よの一役あり

○忌 ヒキ 走つてまの足は深を付りし故

○拔双の鎌 昔年の庭地取し鬼と

○嫌打。物の氣生

○亞。邪鬼

○新人の新神の

○音

ひきまゝとす

○子采人形。子采のころ。廿六のり散

生ヲ采を採る時采の形より童子をまきまきて採
付るよのせ川一なる守りあり 川あり人々を
よめる長き由のあし毛の約よよつるやうに
け采を採りて採を採る 採あつたの上より

○ふらふら。不交。之後。のうさるる

女のこころをすねはきいふころのあつてまるとは

○芥摘。ハチ摘。意。あつた人のあつた。一。油。法。
袖中採りておくはしめて一変をさす

またまらるるころせりつて油をまきまき
をまきまきよめる。又選。献芥のころ。又せり
をみりて甘しとつて送る。芥とつてまきまき

一。を採りて我々よりとおひつてもおひつるころまきま
夜くはち摘。もまきまき。むらあつた人まきま

ヤムまきまき。十つ。十。をみりまきまき
まきまきまきまき

ありぬくころくつるあつてまきまきまきまき
まきまきまきまき。累卵。於田。宣其。名

○浪越。のちまきまきまきまきまき
まきまきまきまき

○喧。の。迂。話。だ。ま。す。ま。ま。の。め
まきまきまきまき

○乳。ま。ま。ま。ま。ま。ま。の。め
まきまきまきまき

ろまらるる身。おくまの志つて
まきまきまきまき

○今下小むろふ。ん中。ね死。欠

○^{ツレキ}あ。連。遅。か。す。あ。て。つろくをさう

○^{タハケ}淫。氣。流。ま。ふ。い。ま。く。を。ま。ふ。け。り。そ。恥。も。を。ら。ん

○^{ハツ}離。別。字。云。近。曰。離。遠。曰。別。誘。引。ふ。ふ。今

○^{ハツ}さ。り。快。え。ん。切。お。の。う。世。よ。る。あ。の。記。づ。つ

○^{ハツ}債。お。と。う。け。ま。ま。一。ま。う。り。の。一

○^{ハツ}志。ど。け。る。一。四。夜。解。ち。く。法。丞。の。任。方

劫定帳を劫解由、遠下りを四夜解と子をも劫
定の末をみと志とけるまきといひり今拙ことの礼
報しを志とけるいといひまて女の行の終せんを
を志とけるいとまも志まうて初をかくらるをま

○^{ハツ}海。え。う。さ。う。あ。つ。る。よ。き。中。の。あ。く。ら。う

○^{ハツ}定。色。比。色。定。比。と。も。同。一。男。の。妻。あ。速

○^{ハツ}一。の。漕。依。着。三。乘。宝。信。ま。女。の

つひられハあこきとのひひしをのりきよあこ
きとつあまををるひしを毎日を送りほあま
ていせのあまを一附斗の稿をくらひるを男見
てあこきとをりう死ねまをりをまてをりぬのん

二二二

とけりりとある物語を葉するに物行あること
 事と志しきんも又いふ事とされと物行おれの事し
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま
 ○ **相聞** 後抄抄すおまハ意よりと 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま

○ **不定** 原女の名以中將式詠ると女の上の
 上中下のあこきと云あまの事ハあま

○ **互扱の物語** をそこえり ○ **男坊** をそこえり ○ **妻** をそこえり ○ **女** をそこえり

○ **かハハ** をそこえり ○ **不電** をそこえり ○ **穴籠** をそこえり

○ **よる魚** にのむえ人あるあこきと云
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま

○ **催る** 催る **内意** 催る **たり** 催る **名** 催る **の** 催る **相** 催る

○ **後山** 妹 **角** 眉止 **女** 妹 **子** 妹 **我** 妹

○ **途** **四** **夕** **白** **浮** **子** **花** **籠**
 事おこりハ意よりとつりあこきと云あまの事ハあま

○ **定** **家** **女** **如** **下** **田** **多**

婚日姻

夫親よりこの父を姻とすよりの父を婚とす其よ
れつひて婿姻とす

○婚日 婿交 祝言 妻近
婿交 婿交 婿交 婿交

○言 西宮の言吹 祝言 一説 亦今下の言と
言 言 言 言

○婿 氷語 中人の 伊加えお 婿の言
婿の言 婿の言 婿の言 婿の言

婿の言をたすめとつり一説はたすめを以て婿の
人をたすめを婿とたすていりるるちのそこと
をいひぬ婿たすちよりのもくと婿たすちよ

○綿言 一了 又麻の之 紅葉の妹
太平廣記今日卻成鸞鳳友方知紅葉是良媒
るるれたるのたすめとつり一説はたすめを以て婿の
人をたすめを婿とたすていりるるちのそこと
をいひぬ婿たすちよりのもくと婿たすちよ

○宿世結 言名付 長 男女今今
宿世結 言名付 長 男女今今

○お性 一了 又合 一了 一了
お性 一了 又合 一了 一了

○結 納 一了 又合 一了 一了
結 納 一了 又合 一了 一了

○まき けの 拍 糸 結 糸 結
まき けの 拍 糸 結 糸 結

○七十一種 又九種 又三種 又三種
七十一種 又九種 又三種 又三種

川で遊ぶものよりあつうのむこり子○川魚の山
川魚の一ちりー そまがらうくあそび

○帯きる○帯のいそひ○目合○夜女
メアハセ メトル

めしるハ嫁れ ○出立 祝歌を 剛乞女房
イトコヒヨウハラ

の田舎行く 振きまう ○門火焚 ○輿入 ○家お相
お

をいふ ファイキヤウモリ ○毛むすび マモリカタナ 護刃
ちハ志願のこく

○近小袖 ムカヒコソデ きぬき ムカヒコソデ 流小袖 ソビ 地志地志
男の角より女

おまのあま度うまのせで送る ○打合餅
味なぬこしそをさえてあつ

男の刀をて嫁のきぬ通る時まゐり白をすく きぬをく

つきまゝ餅をあまの白へ入 きぬをく 老人のまゆげをお千蔵万蔵とあまを合せて

きぬ通るすねハ丸の白のしちをさく きぬをく つき合す これと打合もちと

はなはのきぬし 新巻し ちぎり餅 カヒヨケ

お合もち お合もち ○色 シイ 續松 松の根 貝桶 カヒヨケ 波

○そのまゝり 嫁のきぬめりけり ○お女房 お女房 ○近女 ムカヒコソデ

の紙燭 紙燭 さし けりいのさし けりい けりい けりい けりい

けりい けりい けりい けりい けりい けりい

化粧の君 体息不 ○床簾 トコカサリ ○押巻 オシタイ

道末 侍巻 ウツマ ○髻巻 ウツマ ○籠巻 ウツマ

○稻穂着 イナホッホ の家着 ウツマ 者 ウツマ 籠敷袴 カサリカシ

○女襟 メマエ 男襟 オトマエ ○長柄襦子 ナガエビ

○提子 ヒサケ 九ツのくろりや ウツマ ○湯子 ユウジ 九ツのくろりや ウツマ

系ね ケイネ ○籠子 カゴジ 系ね ケイネ ○袴子 ハカマジ 系ね ケイネ

○並巻 ナミマキ ○並紐 ナミヅナ ○婢子 ヒナコ ○大注子 オホツクシ

○奥桶 ウキ ○貝衣 カイ ○子樹 コノキ ○二重 フタヘ

○引渡 ヒキワタ 二重 フタヘ 小袖 コソデ 小袖 コソデ

○筒着 ツツキ ○衣櫛 ウツ ○袴 ハカマ ○袴 ハカマ ○袴 ハカマ

○香立簾 カウダシ ○三校のね ミマツノネ かる カル 結 ムスビ

○おりの オリ 結 ムスビ 帯 オビ ○さ サ いら イラ の ノ 外 ソト

流 ナガレ 女男 メヲオ の 郷 サト の 後 ノチ ○打 ウチ 筋 スジ 揚 ホウ 灸 ウツ

○結 ムスビ 帯 オビ ○式 シキ 三 サン 杖 ジョウ

三

三十四

之く九登のさる成三。鱧吸拍。雜夷

○湯漬。十二組菓子 うまのし まんぢー うや

あつひい とうりえん ○嫁花 おとーまみー

○婿日。○婿耳。○婿子 いりいりー

○舅方。○婿。○二世のかさめ のりまーの髪

○二及の布をひとらふは まゆりえん

○床五。○小松。○彩ま いしちを

○朝の湯 おみかき。○泣家 えん。○饅女

○庭抄 ついで。○公女 あま。○法 し

○枚子 いし。○色 いろ。○色 いろ

○里行。○里 さと。○目 め。○三日の祝 あつた

○花 はな。○花 はな。○花 はな

○猿 さる。○猿 さる。○猿 さる

○言 ことば。○言 ことば。○言 ことば

○うきと○まろく○きろく○まりそく○えろく
○もとま○のく○さる○さむら○もく○あき
○いぬ○まきぬ○あく○むえん○くとま○さく
○ひまら

○^{ミツスイ}ね ぬいけ^{トモ} 柵^をき^あい^けさせ^と 歳時
娘を我家の^に託^はめあ^つせ^し け^しぬれ^を神^と
つよ^いあ^き草^血元^のさ^うろ^ろを^よは^てた^むれ^をそ^そ
ころ^い病^をを^し式^ハ口^海開^き及^しけ^る止^ま
き^まる^あく^まい^る男^の神^の成^をす
き^え季^ま立^正月^の終^り
ち^よ森^の増^礼式^を小^笠原^大法^礼を^お
お^のの^終ま^りつ^て裁^当浅^た六^段編^よお

支 弁

○めくハセ 目成目加目合眼語目そふを由す

人目 人めら^らー^まの^よー^らー^の室
め^ませ^めひ^く ち^りめ^めら^り

み^らめ 柳^のめ^め ぬ^えの^し不^いろ^えそ^め
ま^えさ^やき^ま ^ニユ^ヒキ^キ ^ニツ^ツメ^メ ^ニツ^ツメ^メ ^ニツ^ツメ^メ
あ^ひら^ら ^ニツ^ツメ^メ ^ニツ^ツメ^メ ^ニツ^ツメ^メ ^ニツ^ツメ^メ

○^{ナミタ}睡 花^人眼皮有^自動^名之^曰睡^と則^見

○^{ナミタ}涙 泪^の流^る ^の川^の ^の海^の



○ニツツメ

一の割 一のまろと 一はらう 一くらと
 紅か 一 うらう 一 めま 一 こむ
 もらう 一 ちんり 一 ぬき
 一もろき 一よつき ちんり 一のまろ
 一のち 一の敷 ちんり 一のまろ
 ○意のあゝささく。枕まく。袖ぬき
 そこのあ 一のまろ 一のまろ 袂と隣
 ○髪 思 一 せられ 一 赤 一
 さけ 一 ちんり 一 付 一
 一まく 一 ちんり 一 こき 一
 かつろ 一 入 一 柳の 一 地 ひん 一
 一ぬき 一 とける 一 一 一 一 一

髪 一 あま 一 ちんり 一 一 一 一 一
 一たろ 一 すき 一 遠の 一 一 一
 ひとつの 一 ちんり 一 一 一 一 一
 ○目さ 一 一とけるまろとハ目さ 一とつてひん
 カタスキ 目さ 一とつて肩の 一ハナリカ
 ○肩さ 一あろりをと下ろすをいふ。○放髪 一肩ある
 下ろすとよ末を切て ウナ井ハリ 一はろりうとよ印
 ちんりたるをいふ。 ○童放 一これをもろあこと
 カタアケ 結髪 一髪髪 一くるおろりの髪を髪上
 ○髪上 一よハ髪子とろりていきして長くしむ
 タレカ 一それより十四又とろりて男ならまで
 ○髪 一もたれてあゝあをたれとつよ
 以上万葉考 一百十三のハとをきるの我か

三

三

をさるハとせ子のわいらの髪をさるりよとあり
イセくくくふりらうともかこるぬえあふりして
たれあくへき

ふりか髪

雙又松直花板
假粧略記と云ふ

我ら流並は髪をつて裁く事女々
ひんを十二

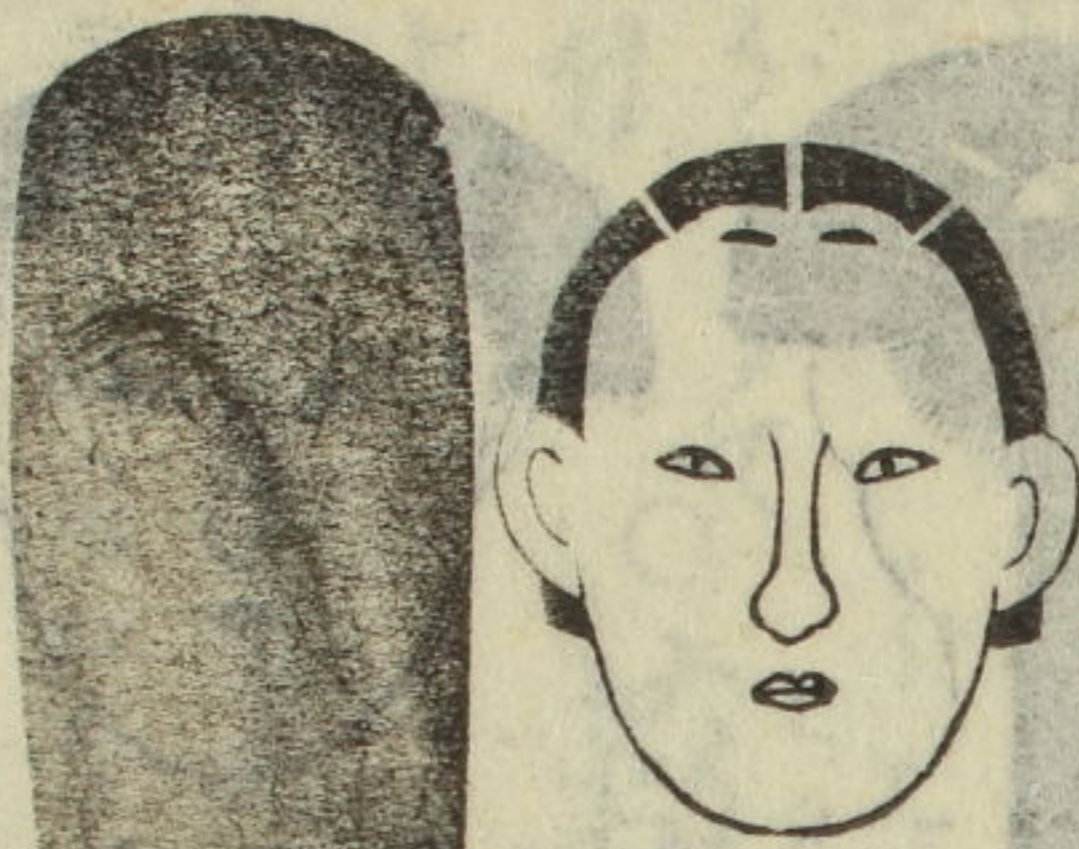
○毛髪らかしの髪 髪をさるらハと云

毛眉 髪ゆま 流

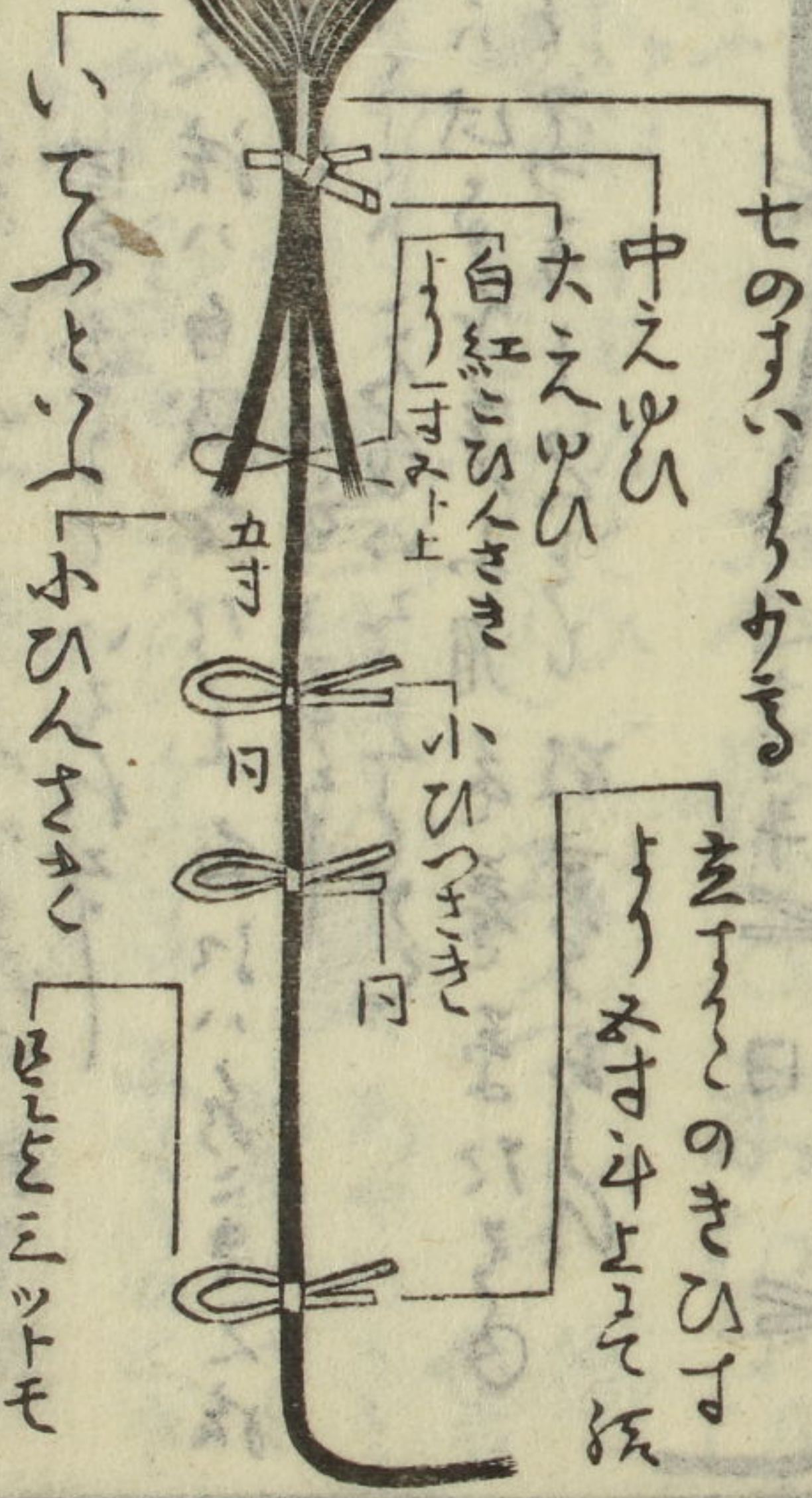


生きの眉のゆりよきますを付まよ
そくて白きこをまゆのわい合を
て眉よえんをさす今ハ眉のゆりよ白きハ
をさるらハと云ふ
中え結
髪らりよ

ひとひハ丸くくねてまの髪を金てまよ引付て白きハを
まえりけめひんよ一ツを中法それと今ハ二ツよまうと
又髪髪をさすハは髪ハま髪ふまをまのゆりよあふり
○大毛髪らり



ひとひのゆけ
こふくハハ



ほことニツトモ
白ねそ髪よ
るも

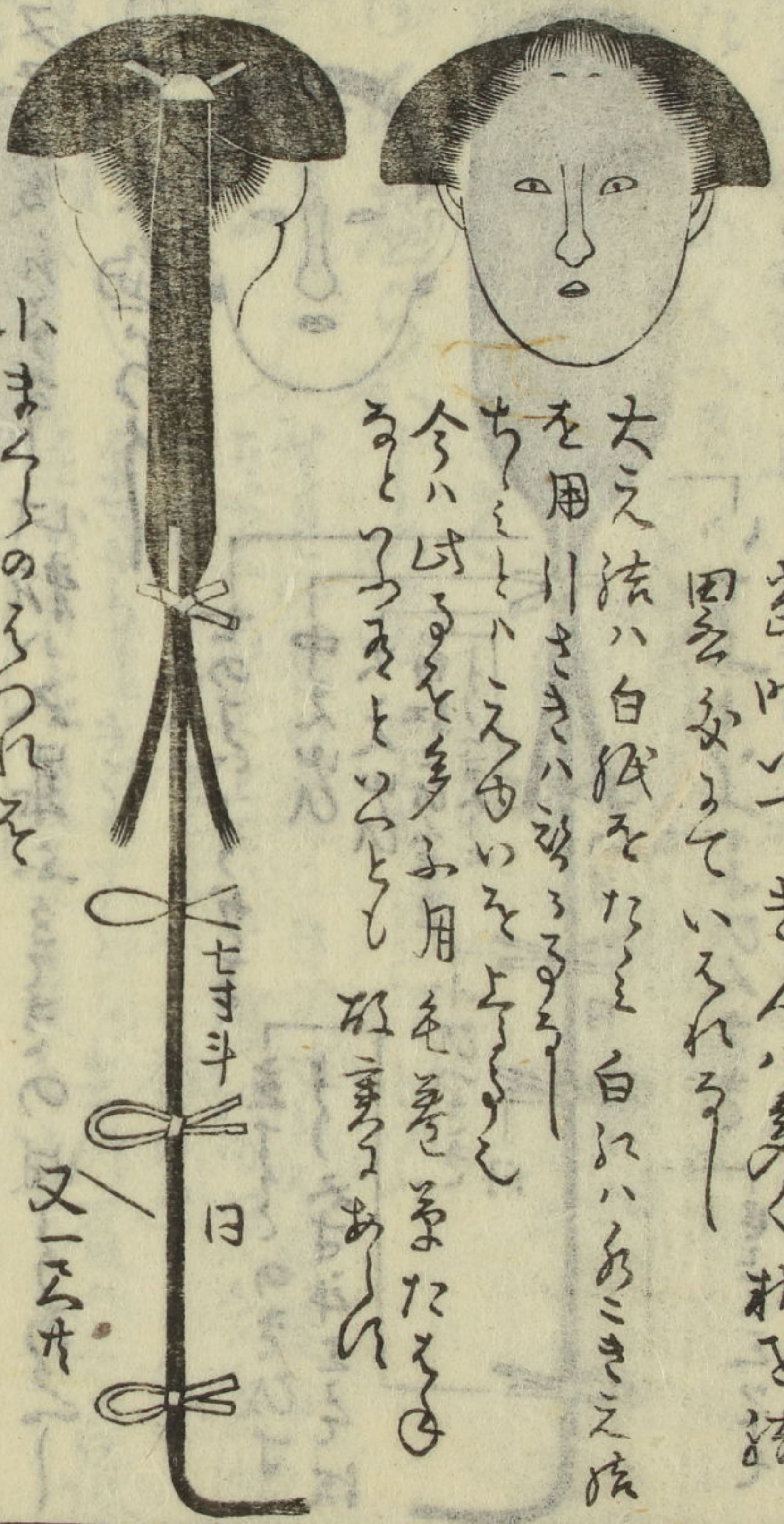
髪

二十

○根結の系

○根結の系
○根結の系
○根結の系
○根結の系

大え法ハ白紙をたてて白紙ハ糸をき之法
を用ひしきハ糸をきふなり
ちいこしハ糸をきふなり
今ハけるを多ふ用をきふなり
るをきふなり



小まらしのかつれそ
老たる人ハ一ツ結
これを糸のおとし
又二ツカ
日

○搔入 ○総角 ○了角

六六才十才子の
髪をよめる総ハ

○朱儿 ○了好吉 ○角好友

○朱好友 ○末好友 ○末好吉

○みづ

○草蒲

○流

○ころ

○華ハ髪イロ うしろのいろ ○下サケ髪 指を結て下とす
眉の毛とをとり

女子ハコいりイとト下カとト 或とす ○さサづヅりリだダ口カ ○髪カミをヲぎギ ウツ

○びビんンをヲぎギ 十六才の時髪をそくすはたすのびんの
毛と等ナのちチのふフとトす 一説はたをす下

く上ウらラうウ下カらラうウのノおオをヲけケ時トキよりヨリ長ナうウつツをヲもモ入イ眉メイとト刺シ
てテ眉メイとトえエくクとトもモあアむムくク多タくクハハ十四シヨウ五ゴ才サイとトもモあアりリ

これコレをヲえエ後ノチとトしシ懐イ妊ニせセるル ○上ウおオとトりリ
婦人の十四才をこへては髪をすするを

原ハラ上ウおオとトりリやヤとトしシふフんンハハ男オトコ女メ ○髪カミをヲぎギ うしろの指
えエ後ノチとトきキりリやヤのノおオとトりリとトしシふフ

○ひヒこコひヒのノかカとト志シくク 山人と志く女のうしろ
志くといふは志くといふは

○髪カミをヲみミつツまマ分ブン 髪短うう字法の指短うの
古くも

○髪カミ也ヤ 長一イチ中チュウ一イチ ○長ナガうウつツとト子コとト長ナガさサ
髪は髪を長うつとす

そソんンのノおオとトりリのノとトすスとトあアりリ又マタ二ニ髪カミとト長ナガさサとト長ナガさサ
とトいイふフハハ髪カミのノ毛モウをヲよりヨリ合アヒとトるル 扱アツのノりリ 函

○たタくク一イチ可カまマ一イチ ○少シウすスるル 共うをあふり
すまうハはんこ

○髪カミをヲぎギ 丸一イチ 茶せん一 ○務ツク山サン 汚ケガレ田デン 兵ヘイ二ニ庫コ
昔は女の毛をうりて

○髪カミをヲぎギ ○髪カミ名ナ ○髪カミ告ツク しとりリ ○髪カミ質シツ ハのノ毛モウ
カラハ カリツケ タブサ

○ふフくクたタとト ひんのそけ ○髪カミ巧テウ たが つと入
とろとろ

○眉まゆ 川一こり 一橋守 一西町 二彦の一

柳の一 一とまろく 一眉をさらふ 一とふは木 一他 一とふは地下

○代墨 說文云黛畫眉也 一眉化す古よりもくもく 一雪の眉 一臍 一ハカツキ

○山一 一諺一 一あし一 一煙の一 一これら

○大形一 一眉立一 一これら

○虎一 一眉をたより削る 一直たけと人の

○天上一 一雲か 一柳一 一枯一

○麻^ナ一 一とハ細くくすくすをハ 一之匠一



又まゆの上にも白粉か少をまゆのまゆとす

○眉よえんをまゆ 一とまゆをまゆとす

すし踏れ合をのり 一おろの代墨 一亂墨

まゆまゆのまゆ 一まゆのまゆ

おろのまゆ



下ノアヤカをニツ。○キハス儻々云々。○ハスよろろい云々の眉

○ハス眉笑。○ハス眉ぬく。○ハス眉の根痒カエキ

○ヒタヒ額ヒタヒ丸ヒタヒ一ヒタヒ孕ヒタヒ一ヒタヒ産ヒタヒ一ヒタヒ言ヒタヒ一ヒタヒ

○ヒタヒ客ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ一ヒタヒ

○ヒタヒ白ヒタヒつヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ又ヒタヒ

○ヒタヒ神ヒタヒ白ヒタヒ祓ヒタヒふヒタヒをヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒまヒタヒ

まのぬのちきりヒタヒのらヒタヒまヒタヒつヒタヒくヒタヒいヒタヒもヒタヒのヒタヒてヒタヒけるヒタヒをヒタヒるヒタヒひヒタヒつヒタヒちヒタヒりヒタヒあヒタヒまヒタヒ

○ヒタヒ花ヒタヒのヒタヒ一ヒタヒ。○ヒタヒ妹ヒタヒ。○ヒタヒ媚ヒタヒ。○ヒタヒ生ヒタヒ。○ヒタヒ婿ヒタヒ。○ヒタヒ花ヒタヒのヒタヒひヒタヒめヒタヒ。○ヒタヒ玉ヒタヒのヒタヒ唇ヒタヒ。○ヒタヒ美ヒタヒ女ヒタヒ

○ヒタヒあヒタヒつヒタヒくヒタヒりヒタヒ。○ヒタヒ娜ヒタヒ。○ヒタヒ窈ヒタヒ窕ヒタヒ。○ヒタヒ二ヒタヒ重ヒタヒのヒタヒ膚ヒタヒ層ヒタヒ

○ヒタヒ柳ヒタヒ腰ヒタヒ一ヒタヒ。○ヒタヒ獸ヒタヒ面ヒタヒ。○ヒタヒ化ヒタヒ粧ヒタヒ。○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○ヒタヒけヒタヒらヒタヒいヒタヒなヒタヒるヒタヒさヒタヒらヒタヒ。○ヒタヒくヒタヒ意ヒタヒ用ヒタヒ於ヒタヒてヒタヒおヒタヒ

○意 瘦。やつれる ちぶよしやくとハチノムチキル

○身 志ろき カシキミ 一ノケノキガ 人ニレぬ

○身 を 川 川ニアキト 身ヲ川ニ

○尻 たく 尻ヲ

○口 呼吸 呼吸ノ

○人 の 香 人ノ香

○白 歯 白歯

○歯 潔 歯ノ潔

○声 勢 声ノ勢

○醜 そのつら

○精 を 焼 我負の又まきを

○懐 妊 ハラム

○身 おし 身ヲ

○月 の さつり 月ノ

○隙 月 隙ノ月

意 義

○接ウツギ さんさん 返返
 ○離魂カケヤニヒ 抱抱 ぬぬ のの 拍怪モクケ

○氣ケ 紙シ ○愁シウ 眉メイ 何何 とと 多多 くく 抱抱 ぬぬ のの 拍拍 怪怪

○唬テイ 狂ソウ 何何 やや 多多 くく おお ちち うう けけ をを ○打セツ 擧ヨウ 歩ホ 曲キョク てて

ああ るる をを 又又 ちち んん のの ○驚ウ 齒シ 笑ウ 何何 とと 多多 くく 抱抱 ぬぬ のの 拍拍 怪怪

又又 ちち んん のの ○憤タ 言ハ ぬケ 吉イ 何何 とと 多多 くく 抱抱 ぬぬ のの 拍拍 怪怪

人人 のの 驚驚 ろろ のの 多多 くく 抱抱 ぬぬ のの 拍拍 怪怪

又又 ちち んん のの ○肉ニク 屏ヘイ 肉ニク 陣ジン

又又 ちち んん のの ○妓キ 團イ 天天 宝宝 送送 るる

又又 ちち んん のの ○諫コウ 孝コウ 宮宮 才才 へへ 所所 をを 送送 終終 をを 送送 るる

○香コウ 肌キ 暖ニユ 天天 宝宝 送送 るる

○肉ニク 友トモ 肉ニク 友トモ 男男 根根 をを 送送 るる

○皮ヒ 行ユク 罪ツミ のの 懐イ 天天 宝宝 送送 るる

○乳チ 添ソフ 乳チ 一一 疾疾 一一 示示 一一 癰癰

○厄ヤク 年ネン 十十 九九 三三 十十 三三 原原 三三 十十 七七 のの 邊邊 をを 送送 るる

○厄ヤク 年ネン 十十 九九 三三 十十 三三 原原 三三 十十 七七 のの 邊邊 をを 送送 るる



人倫

神の女友の多を裁臆系抄をやりけ解し行孫令
源令拾丸

○太皇太后宮 帝王の御祖母也

○皇太后 帝王の御母也

○皇后宮 帝王の御妻也

○中宮 御妻の正后とむく三宮の惣
を中宮とす

中宮を正后とす 相武の時又中宮を

は代皆皇太后と弁文と裁臆系抄

○女院 中宮の正后居之天子の正母也

○正母 是又天子の正母之昔ハ女院正母のなる

○内親王 天子の正后正妹正姉之内親王の宣
下有宣下有皇子と云

○女王 親王家の正后を以

○女御 三公の正后女御殿を造りて之を周礼
ニヨウ

○女御代 女御の代也

○女御代 女御の代也

○兵司

兵部ハ兵庫寮ヨ池トツキ老の御
政の兵部ハ兵部ヨツキ老の御
正七位○典兵後八位二人○女侍六人

○衛司

衛志相通の少門を以テ○者衛一人
○典兵四人○女侍十人

○殿司

交弁ささし後又又不し後○者殿一人
後六位○典兵後八位二人○女侍六人

○掃司

このもりよ大伴同し○者掃後七位一人
○典掃後八位二人○女侍十人

○水司

碓のりすと碓ハ法食の毒を解四月
十五日小豆の四月十日のりすと

○者

○者後七位一人○典兵後八位二人○兼女六人ハ法食

○信司

一切の信食ハ信後七位一人○者信正四位一
人○典信正六位二人○兼信正八位四人

○酒司

兼女六十人兼女のりハ正六位
酒とカモカモと月○者酒正六位一人
○典酒後八位二人

○總司

正四位一人○典總後六位二人○兼總四人
正八位女侍百人○右十二司を職人官人とし

○上臈

二位三位典侍とし○小上臈
大臈の所臈とし

○中臈

五位四位の人の所臈
法をまこ

○下臈

和上臈 和ハ下ヤ
加久茂日吉木の
社司の所臈

○あて人

上臈のひめまらえ
宮女とし
五位以上

○おのいえ 女子の嫡子 ○くぢ ウツは女房

通つてはめの通称 ○相付 ものをけはま女房をえ

京くそ ○御所 えき屋敷といは儀のふくま屋敷といは

時をのけはまをせてこれを御所のぬく ○所 と中と

春盤をとり果し ○御中 おりのまて候ふ友人のまきと

御 ○家督 公家の ○上様 今ハイヤ

はたらく ○家督 公家の ○上様 今ハイヤ

妻をかしきとむといふと遠りたハキ人の妻

と称して上様といひしとこれよりして今あるては

女友といふく一乗屋富所取の上様といふて

はるるとは捲はは元正はは月十日に供二番同上様

に供又人とはは新造はは捲ははまき人ハハ妻を定方

は妻の位高まきおと彩とて送候するはまき家ての急

○奥方はは標ははハを世のハ本人

○さしづ 通正才とて妻のけをく主人

ハニハウ ○男房 原平盛を義記とあり安所ハ女房と

ゆれとさよあはれ ○男房 男房共は後をゆくと拍子あり

○妻

今夫妻とつひて、男の方をくらりとこへんよ
 うらも女を妻とつひ
 妻あつまよひると。はし妻のほぎつま
 はまきいしとくまき
 可也ハ師をくや。とま一妻 まれらる

○とは妻。むつまは。一扱妻。似極く

○人妻。恋一 花一 いろひ一

かく一 いろ一 いろ一 いろ一

○玄妻。三山の好む
 只女をさるてつふ今もよめまてハ女をけん
 さつとつふ玄ハまて繁のまきとつふん

○内か。内々といふハ女を河へ
 ぬすていふと。○内か。内々といふハ女を河へ

○内室。内女。女房。今の人妻をさるて
 女房といふと世のま

る。宮女を女房といふ。不位よきを
 いまの房とハ房のまて。後ある

○後達。上より女房へ。礼記云。右之言後也
 在夫後故以女謂後達

○吾妹子。又女の娘也。○法こ。とらひと

○家言子。主人女。○せこ。曰

○みめ。古語。古那義也。妻之
 大和

○入ツの何し 源氏に後 〇嫌イキの味イキの七

女足子の妹とて子とぶ女いさるるのつしうし冠に
これハ上ツ代しう末の代と西の代とさしう末の代とさし
ハ源氏にさしうせこの見えハ婿小をさしうさるるを源氏
その小をよむるひてうの婿のさしうとせしうのさし
しちまのゆめし 古者不レ言兄弟長知女以男
祢レ兄男以女祢レ妹ト男

○托女 托女とてこの介ありてけいせいのやうと思
たりたりし昔の天皇家八人の姫とて七人居りて

〇托君トキ〇乙女オトメ〇憾イタ〇嬌イキ
托女とてこの介ありてけいせいのやうと思
たりたりし昔の天皇家八人の姫とて七人居りて
忌の女とてさしうとあれハこれとてさしう

おとめとしさ少女のやうな女おとめをとりと
うるも遠くおとめハさしての女ハ男とおと
たるしおとめとて男ハ女とてさしうたる
〇まゝるのおとめ さしうまの
たんさめ 〇たこ 田舎
おとめ 〇しび 伊
おとめ

〇子ナし女 田舎
おとめ 〇たこ 田舎
おとめ 〇しび 伊
おとめ

〇帰キの人の 田舎
おとめ 〇女メ 田舎
おとめ 〇美ビ女メ 田舎
おとめ

〇いイつめ 田舎
おとめ 〇美ビ女メ 田舎
おとめ

のまのまはみどり房之権殿美女御月入集るるしとてさし

○女中 にふ | にふ | にふ | にふ

○たをや女 あな | あな | あな | あな

○忌まのける女 ○妻女房 ○妻女 あな | あな | あな

○見立 テ | テ | テ | テ

○をこち ○麻績女 あな | あな | あな | あな

○鬼 おに | おに | おに | おに

○をこち ○麻績女 あな | あな | あな | あな

○ひさもち ○をこち ○をこち

○人 ひと | ひと | ひと | ひと

○絶女 ○絶姫 ○織 オリ | オリ | オリ | オリ

○かこらいと子女 あな | あな | あな | あな

○比目 ○比目人 あな | あな | あな | あな

○すま女 あな | あな | あな | あな

○くらや女 ○ひさし女 あな | あな | あな | あな

○ひさめ他ニ敷婦長女○ひさや女ト女

○るれり女むれり女○むれり女むれり女○むれり女むれり女

○河内女下女○大和女下女○老後下女○つじ下女

○難波下女○ちのせ下女○小原下女○芥生下女

○矢野女下女○ム女下女○男下女○持下女

○秩下女○秩下女○秩下女○秩下女

○秩下女○秩下女○秩下女○秩下女

○媛下女○媛下女○媛下女○媛下女

○娘下女○娘下女○娘下女○娘下女

○まる下女○まる下女○まる下女○まる下女

○乳母下女○乳母下女○乳母下女○乳母下女

○妹下女○妹下女○妹下女○妹下女

○姫下女○姫下女○姫下女○姫下女

○姫下女○姫下女○姫下女○姫下女

○姫下女○姫下女○姫下女○姫下女

イモシウトメ
○快 ○姆女 師匠 ○嫂 ○婢
おとと人

セウ
○妻
めろけ おめひまの
てろけ かこひ
おとと人

ワキ
○掖子
おむしこ娘
まきころこ吉
○欵丈
まめととこ
まめハまじ

又まめハ好むのり
○まめたち 瞋 抱
○女 足 才 ○せうと

○きんひら 娘
う男めまこる女ときんひらと
ふ大和太孫のちまきんひらの娘

あまこの井ノと
○智 目
は松いせの併まあまより
まじりのりそけうらふ

ちのひて酒をふるをとおやげしきこめしてま目ると
つけさせひいてまのひも酒をふるうらうらふ

○ちりぬのをととこ。さうたし。ともしる

○念者。色後。小性。山

○出家落
坊主所 破戒 ちひく

○をとり 後
下後とと 妻の子
○をとこ 思

○寡
女ヤモメ
○婿 ○牧女 婦
鰥 魚 田カ 鰥

○旅 旅 任 ○未 通 女
トメ 少女 ○妻 女

○見とめ
こる 少女と
こる 少女と

○延虫。海人。志望のーいせのー

そーまのーのうまのーおとめ。カツキメ

かつきの延虫。汐汲。田子のー里

○市女。冨貴女。うはたまり。女

女。花はあ。のまの。文は女。女あきえとこ

海つ。かい女。まの。まの。女業こ

○その。帯貴。又貴女。糸山白川

○おりめ。おへこ。おる女。おはこめこ

○麻の子。ゆひ。綾。てこ。女のえ

か。は貴。小原女。富川女

○湯女。風呂屋の。猪。拍

○警女。女め。女法師

○女。い。白拍子。ほろ相伝の代

○女。女。女。大拍。おとめ

○葎子○葎云子○葎妙○あごこ

細川女 ○志こ 醜女 ○葎冥 人物訓蒙 葎の如き

葎の甲よりある女の乃よ袋をいづき葎友の葎を

冥世ワラありヨナヤナイとて子を出行

葎のハツ時より おん ○見冥 むい 葎ある女

葎舟を ホロ 通味 ミツ 夢 ウリ 一色 葎ある味 葎

葎おわり うきいしをて葎のささるりのか人るん 曲物よきれい

葎のるき女 葎を おわいさし 葎子 何れもさし 下はまるる葎

葎のるき女 葎を けれいささし 葎のくい葎人すしと



